NIE実践報告

1．タイトル：**☆社会科における新聞記事の活用　~「わたしたちのくらしと食糧生産」~**

2．学校名

愛媛県松山市立石井小学校

3．実践者名（代表者名）

三好　弘美

4．学年

第5学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　29人

6．単元（本時の学習課題）名

わたしたちのくらしと食料生産

7．目標(狙い)

日本が抱える食料生産の問題について、教科書や新聞などの資料から読み取り、環境への影響、国際協調の観点、生産者と消費者などの視点から、自分なりの考えをもつことができる。

8．評価の視点

我が国の食料生産の抱える問題について、見通しや予想をもって、学習を進めることができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「これからの食料生産とわたしたち」(7時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①日本国民が必要としている食料の現状について知り、今後の学習課題をもつ。（1）
②現在の日本の農業の姿について調べ、日本の農業の抱える問題を理解する。（1）
③農産物の輸入について調べ、長所と短所について考える。（1）
④農業に起きている問題が、自然環境や世界の食料不足に与える社会的な意味を考える。（2）
⑤これからの日本の食料生産について、自分なりの考えをまとめ、発表する。（2）
（留意点）
・普段何気なく口にしている食料に大きな問題があるという事実を知らない児童が多い。そこで、本単元では、新聞資料を用いることによって、現在の自分たちの社会で起きている問題だという認識をもたせる。
・グラフなどの資料とともに、新聞の情報を活用させることで、多面的に自分たちの社会をとらえ、社会的事象に対する確かな知識を深めたい。
・互いの考えや思いを伝え合う場を設定することで、自分の考えを見つめ直し、深めていく共生の学びを成立させたい。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

干ばつや内戦のために、食料不足になった国の子どもを紹介する新聞記事を提示すると、児童は、自分と同じ年頃の子どもが飢餓に苦しんでいる記事から、食料が不足するということは、どういうことなのかということを実感していた。

12．成果と課題

○新聞記事や新聞広告は生活に密着し、また新しい情報であり、新たな学習課題をもつために効果的であった。
◇グラフと新聞からは、それぞれ読み取れることが異なる。読み取らせたいことや内容を考慮し、提示する順番を考える必要がある。